



# 子ども大学かわごえ

## 子ども大学とは？

130909

子どもは10歳ころから知性が急速に発達し、世のなかのことや自然のことに「なぜ？」と素朴な疑問を抱きます。この子どもたちの好奇心に応え、知的な世界を開くため、大学の先生や専門家が、大学の教室で、分かりやすく授業する「新しい学びの場」が子ども大学で、ドイツで始まりました。

子どもたちが育ち、わが国社会を支えていく未来の世界は高度知識社会で、創造的知性が求められます。子どもの時から大学の知性に触れ、新しい知的世界をのぞき見ることによって、学ぶことの楽しさを体験することは、子どもの夢とロマンを育み、知性を磨く貴重な機会となるはずです。

子ども大学かわごえは、地元川越の3大学（東京国際大学、尚美学園大学、東洋大学）の教授たちと連携して平成20年12月に産声を上げました。

## 子ども大学かわごえ(CUK)の4つの特長

1. 子ども大学かわごえは未来志向型考える教育を実施する。
2. CUKは、わが国初の本格的子ども大学です。
3. CUKは、一般市民、大学教授、小学校教員、産業人、行政職員など地域のボランティアが結集してつくった市民立大学であり、地域の落とし子です。
4. 純粋科学的な“なぜ”を追求する「はてな学」、キャリア教育の「生き方学」、郷土を知り地域に貢献する「ふるさと学」が、教育プログラムの3本柱となっています。

## 沿革と組織

設立 平成20年12月22日 (NPO法人子ども大学かわごえ)

役員	特別理事	的川泰宣 (JAXA名誉教授)
	理事長	酒井一郎 (早稲田大学産業経営研究所特別研究員)
	理事・学長	遠藤克哉 (東京国際大学副学長)
	常務理事	口元周策 (ジャパンタッチラグビー協会理事長)
	理事	望月 修 (東洋大学理工学部教授)
	理事	矢倉久泰 (教育ジャーナリスト)
	理事	石井成人 (昭和工業(株)社長)
	理事	野村和博 (川越市立川越第一小学校愛校会会長)
	理事	糸原恒久 (川越蓮馨寺住職、川越観光協会会長)
	監事	市川 勤 (株じもとのneco取締役)
	役員&会員	68名 (2012年8月1日現在)



## 教授陣

上記3大学の教員および他大学の教員や実務家（例、ジャーナリスト池上彰氏）

## 学生

20年度	第1期生	小学4～6年生	合計116人
21年度	第2期生	小学4～6年生	合計100人
22年度	第3期生	小学4～6年生	合計172人
23年度	第4期生	小学4～6年生	合計183人
24年度	第5期生	小学4～6年生	合計184人

教室 東京国際大学、尚美学園大学、東洋大学

後援 埼玉県、同教育委員会、川越市、同教育委員会、鶴ヶ島市教育委員会、川越商工会議所、米ボーイング株式会社、公益財団法人博報児童振興会、公益財団法人ソロプチミスト日本財団

活動地域 川越市と鶴ヶ島市が中心、ただし地域の制限なし

## 事業規模

年間総予算 375万円（平成23年）

収入構成 授業・講習料 35%、寄付金（企業&個人）25%、会費 15%、  
団体助成金 13%、記念誌積立金他 12%



## 会員の校正

現在の会員数（男女別）	男 37 名、	女 31 名、	計 68 名
設立時の会員数（男女別）	男 10 名、	女 0 名、	計 10 名
現在の年齢別構成	20歳未満 7名、	20代 6名、	30代 9 名
	40代 20名、	50代 5名、	60代以上 21名
現在の職業別構成	自営業 12名、	会社員 20名、	農林水産業者 0名
	公務員/教員 8名、	学生 9名、	その他 19名
平均年齢	37 歳		

## 年間活動

### 正規授業

C U Kの活動は土曜日の午後2時から4時までの間50分授業2コマの授業を行うことを正規の授業活動として年間10回程度実施している。この正規授業は180人の学生と100人近い保護者が一緒に聴講する一方向授業である。

正規授業に関しては、年度ごとに主テーマを決め、23年度は「宇宙」と「国際」であった。「宇宙」に関しては、JAXA 名誉教授の川泰宣先生に『「はやぶさ」と子どもたち』というタイトルのお話をいただき、国際に関しては、(株)国際開発センターの三井主任研究員に『なぜ世界には貧しい国と豊かな国があるのか?』について、また池上彰客員教授には『世界地図から世界を見る』について講義をしていただいた。

24年度のテーマは「研究開発」と「国際」で、前者に関しては(株)富士通研究所の開発責任者安部文隆工学博士に『夢をかたちに ~スーパーコンピュータ開発の話~』というタイトルでお話をいただき、後者については専修大学の今井雅和教授に『世界と上手に付き合おう - TPPってなあに?』について講義をしていただいた。

平成25年度(第6期)の主要テーマは、「経済」、「宇宙」、「音楽」である。

平成21年(第1期)から実施した授業のタイトル(抜粋)は次のとおりである。

- ・なぜ飛行機は空を飛ぶことができるのか?
- ・なぜ人のいのちを奪ってはいけないのか?
- ・なぜ多数決で決めるのか?
- ・なぜ電車の席は隅から埋まるのか?
- ・どうしたら10分間でギリシャ神殿を描くことができるか?
- ・世界地図はひとつではない
- ・川越氷川祭(川越まつり)と川越
- ・なぜカメの甲は六角形なのか?
- ・異文化コミュニケーションを楽しもう!
- ・オリンピック聖火ランナーのヒミツ?
- ・お金はどこから来てどこへ行くの?
- ・なぜ税金を納めなければならないの?
- ・そばにある国際化: フランスの弁当箱と忍者ナルト
- ・なるほど! 童謡~日本の文化財"童謡"の魅力を再発見~
- ・「民主主義の国」とはどんな国?
- ・『はやぶさ』と子どもたち
- ・よみがえる金色堂
- ・世界にはなぜ豊かな国と貧しい国があるのだろう?
- ・原子力発電について考える
- ・君は今日からオンリー・ワン小学生~いい学校へ入るより、夢を実現するひとになれ!
- ・「平和」ってなんだろう? ノーベル平和賞受賞者たちのしごと
- ・ピーターパンの祖先はだれか? ~ギリシャ神話の楽しみ方~
- ・東京スカイツリーのひみつ?
- ・なぜチンパンジーは石器を作れないか?
- ・夢をかたちに ~スーパーコンピュータの話~
- ・英語の楽しみ! 学ぶ楽しみ!
- ・生きる力を測定しよう!
- ・世界と上手に付き合おう - TPPってなあに?
- ・太平洋戦争とは何だったのか?
- ・日本は豊かか貧しいか
- ・アベノミクスとは何だろう?
- ・渡辺真理さんと話そう!



- ・音に命を吹き込む「音楽の魔法」～初音ミクと歌う里山の歌～
- ・怪物、ゾンビ、ロボットと人間の違いは何か？
- ・川越市から飛び出せ！体験ロケット教室
- ・経済学のはなし

#### 特別授業

この 200 人も聴講生に対する大規模一斉授業を補完する意味で、50 人程度のワークショップやフィールドワークも実施している。また、頭だけを働かす授業でなく、体を使って学ぶ「ものづくり教室」や職業体験学園祭「ミニかわごえ」なども催している。

平成 25 年 8 月 24 日に埼玉県立川越工業高校の全面的協力による第 4 回“生徒が先生の「ものづくり教室」”が同校の 5 学科で、午前・午後 2 時間ずつ講義がを開催された。講義のテーマは、デザイン科 = ステンシルによるエコバッグ製作、化学科 = スライムづくり、機械科 = 金属製模型飛行機の製作、電気科 = LED ライトのクリスマスツリーの製作、建築 = 蔵造り模型の組立て、それぞれの教室で教師（生徒）の指導を受けた。教師は子どもたちの姉さん兄さんの年代なので、教室の中は和気あいあい、授業は小学生と高校生との世代間交流の場ともなった。

今年も 9 月 14 日に富士通(株)環境事業部の畠山義彦氏が 2 名のアシスタントを同行してパソコン 14 台を持ち込み、14 のグループに分かれた子どもたちに、パソコンの分解・組立を通してリサイクルの 3 R (Reduce, Reuse, Recycle) や環境問題（生物多様性）について考えさせる実践的環境学習授業を行っていただく予定である。



教室の中の座学とは別にフィールドワークも人気がある。子ども大学かわごえの 5 年生たちは、去年に引き続き今年 10 月に早稲田大学所沢キャンパスを訪問して、同校環境調査室大堀聡先生の指導の下にキャンパス内の狭山丘陵を探索して様々な教育や植物や生き物に触れながらフィールドワークを楽しむことになっている。この早稲田大学のキャンパスの隣には「トトロの森」があり、子どもたちはアニメの世界でお馴染みの「トトロの森」を実体験することができて大喜びすることになる。

今年 12 月 14 日には東京ビッグサイトの環境展覧会「エコプロダクツ 2013」を C U K の全学生が訪問する。主催者の日本経済新聞社が、子ども大学かわごえの活動に興味をもち、子どもたち 160 人のために無償でバスを提供してくれることになっている。

#### 部活動

C U K には部活動もあり、子ども大学新聞部には十数人の部員が所属していて、各授業の内容や受講者（子どもと保護者）の取材を行い、毎月新聞を発行している。スタッフ（会員）の一人が元毎日新聞論説委員であった関係から同氏が編集長となってレベルの高い新聞を発行している。昨年 12 月に創刊号を発行し、最新号は 6 号目である。

## 教育活動の成果

大勢の聴講生による正規の一斉授業か小人数のワークショップか、を問わず教室では子どもたちだけでなく保護者も後方で聴講している。子ども大学の講義は、内容は子ども向けに易しくなっているが、テーマは大学レベルのものである。このため保護者も大喜びで一生懸命聴講して、自宅へ帰ってから子どもと授業の様子をよく話し合い、(元々予定していなかった)親子共学の副次効果が上がっている。

## 子どもの感想

子どもたちは小学校では学べない新しい課題について大学の先生のお話を聞いて大感激をしている。小学校とは異なる自動化された大教室にも興味津々である。

- ・学校では聞けない話がたくさん、とても面白い。
- ・新しいことを一杯知った。
- ・もっといろいろな話を聞きたい。
- ・この世界は、不思議で一杯なんだなあ・・・。
- ・あたりまえのことはない!と思った。
- ・教室の雰囲気大学らしくていい気分だった。



## 保護者の感想

授業の様子については、授業終了後学生の他に保護者も感想文を書くことになっている。

- ・小学校では教えない新しいことが沢山出てきて、子どもが後で辞書やインターネットで調べようになった。
- ・授業を受けた結果、何事に対してもよく考え、質問するようになった。
- ・自分の興味のないことには関わろうとしなかったが、何事にも食いついてみるという姿勢が出てきた。
- ・授業で一緒に聞いたことを後で親子で話し合うのが習慣になった。
- ・子どもはいままでは限られた事にしか興味をもたなかったが、子ども大学の講義を受けてから色々なことに興味をもち、テレビのニュースなどをよく見るようになった。
- ・講義で聞いた事に興味をもつと、家へ帰ってから自分で百科事典を見たり、インターネットで調べるようになった。
- ・的川先生の『はやぶさ』の話を聞いてから「宇宙」にどっぷりつかってしまって宇宙をタイトルに夏休みの自由研究を行った結果、学校で先生に褒められた。
- ・望月先生の『飛行機』の話を聞いてから飛行機に関する様々な本を読み、先日は所沢の航空公園へ行って実際の飛行機のコックピットに座って大得意だった。

以上のように子どもたちが子ども大学で授業を受けた結果、知識を増やただけでなく、学習行動や日頃の生活行動に変化が起きていることを感想文のなかで報告している。

一保護者は次のように報告している。

「お世話になります。5年の長谷川諒の母です。

入学式&第1回の授業後、息子は「ぜんぜんわからなかったぁ！ついていけないよう..」と弱音を吐いていたのですが、その後の表情が変わってきたのでご報告です。

子ども大学には同じ学校からクラス代表になるような子が参加していて、親としてもシャイな息子がついていけるか心配でもありました。でも、帰ってからインターネットで調べ学習したいと言って、熱心にノートにまとめをはじめました。まとめてみると誰かに教えたくなくて、頭に入っていくようでした。親も一緒に勉強することで、子どもの目が輝き始めたように思います。

ああこれでいいのかと思い、参加させてよかったと思いました。今後ともよろしくお願いします。」



### 授業参加者数

第6期に実施した正規授業の一覧は前述の授業計画の通りであるが、CUKは第5期(平成24年)末までに43回の正規授業を行ない、学生(子ども)4019人、保護者約2231人が授業に出席した。特別授業としてワークショップや「ものづくり教室」なども実施し、川越市と協働の学園祭「ミニかわごえ」こどものまち”では、市内全域から2日間に1250人の子どもが集まった。(応募申込者は1500人)

前述のように保護者が正規授業や特別授業に参加しており、「ミニかわごえ」などの特別授業には地域の子どもたちや大人が積極的に参加・協力している。子ども大学かわごえ内部では、子どもだけでなく、保護者とスタッフの相互学習を通して“生涯学習の場”が出来ている。このように地域の学習参加者にひろがりが出ている。

授業の様子は、森永エンゼル財団 森永エンゼルカレッジ インターネット放送局を通して世間一般に広く配信されており、生涯学習の一端を担っている。

### 事業部制活動

発足以来4年でCUKの活動が多様化してきたので、平成24年4月から事業部制を導入して、それぞれの目標を定めて活動を開始した。

#### 基幹事業部

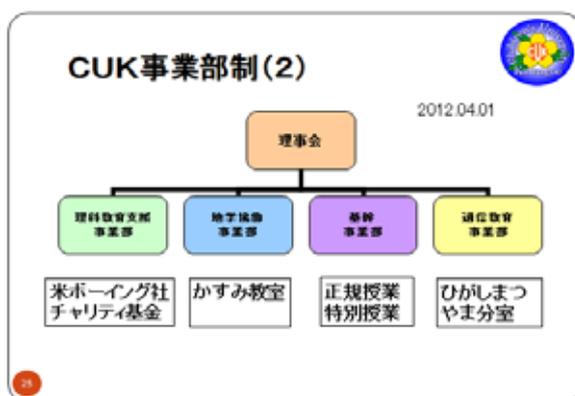
従来の授業活動、すなわち正規授業と特別授業を実施して、相互に補完する。

#### 地学連携事業部

川越市自治会連合会霞ヶ関北自治会と協働で分校「かすみ教室」を設立、本校の学生募集の際に定員(180名)から洩れた子どもをさらに50名受入れた。

#### 通信事業部

埼玉県東松山学童保育所内の職員でCUKの会員が同保育所の子どもたちに本校の授業の様子を伝えると毎回大変興味深く聞いてもらえる。このため東松山学童保育所の一部を通信教育事業部の「ひがしま



つやま分室」と位置づけてきたが、25年1月の本校授業（専修大学今井雅和教授『世界と上手に付き合おう - TPPってなあに？』）をインターネットでリアルタイムで分室へ流すディスタンスラーニングを実施し、成功を収めたので、今後この方式を継続する。

#### 理科教育支援事業部

平成23年度から米国ボーイング社からチャリティ基金を受託し、小中学校の理科教育の支援に協力することになった。それにともない25年度にC U K内に「川越サイエンスサポートセンター（KSC）」を設立、川越市内の小中学校と高校の理科ふれあい連携事業ネットワークを構築、川越市内の小中学校へ広く支援を行うことになった。KSSCの主な役割は事業で必要とされる人件費や材料費などの助成である。

#### 平成25年度新規事業

##### 子ども大学かわごえ少年少女合唱団

尚美学園大学坂田晃一教授らの指導を受けて世界の名曲を原語で合唱する。近隣の川越市立新宿小学校と協働事業。平成26年3月に尚美学園大学のパストラル音楽ホールで発表会を行う。

##### 農業体験学習

県立川越総合高校の農場の一角を借りて、農園の運営を通じて農業体験学習（「ふるさと学」実践）を行う。近隣の川越市立名細小学校や上戸小学校と協働事業。

##### 授業活動のIT化

- 分室・分校へのディスタンスラーニングの実施
- 授業内容のコンテンツ化
- 特定授業のユーチューブによる授業内容の配信

##### 理科教育支援ネットワークの充実

ボーイング社の助成金の金額を毎年10～20%増額することで基本的な了解を取ったので、その分川越市内小中学校に対する支援を強化する。



##### 協同授業、「万葉のこころ」

来年度に向かってC U K会員の教師、一般会員、学生および外部の万葉集専門家の協働でC U Kオリジナルの立体的授業を企画・実施する。万葉集の時代背景に関する講義は外部の専門家、歌の朗読は少年少女合唱団の団員、映像は会員の提供、音楽の伴奏はC U K客員教授小林範子氏という構成で取り組む。

#### 受賞

C U Kはまだ発足して5年が経つたばかりのベンチャー組織であるが、幸いにも5度受賞の栄に浴した。

##### 賞1. 埼玉県NPO大賞 優秀賞

埼玉県では平成23年に埼玉県内にある1900のNPO団体の活動活性化を促すため埼玉県NPO大賞を設け、全団体から1次選考で30団体を選抜し、県民投票により上位8団体を選んで、2次選考

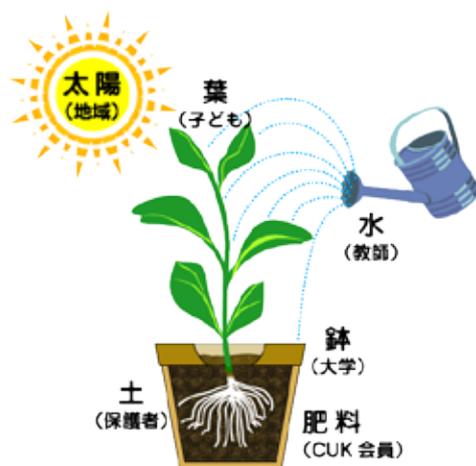
を行った。その結果、ときがわ山里文化研究所の大賞に続いて、C U Kが優秀賞を受賞した。新参者のC U Kが受賞できたのは幸運であった。

## 賞 2 . 博報財団 博報賞

平成24年9月に公益財団法人博報児童教育振興会(博報財団)から博報賞(教育活性化部門)を受賞した。博報書とは、児童・生徒の「豊かな人間性育成」には子どもたちと日々直接向き合う教育実践者の役割が非常に大きく、児童・生徒に対する日常の教育現場で貢献・努力されている、学校・団体・教育実践者を表彰することを通して、児童教育の現場を活性化させ、支援することを目的としている賞である。

## 賞 3 . 平成24年度地域づくり総務大臣表彰

この賞は、全国各地で、それぞれの地域をより良くしようと頑張る団体、個人を表彰することにより、地域づくりへの情熱や思いを高め、豊かで活力ある地域社会の構築を図ることを目的としている。授賞の理由として、地域の複数の大学の教員や専門家と連携して小学生(4年生から6年生)を対象に創発的な授業を行っている、子どもたちに新しい知的世界への目を開かせ、興味を喚起し、将来の夢を動機づけ・気づきを与え、知的好奇心を刺激することを目的としているという点が評価された。



子ども大学かわごえ (CUK) は  
みんなて子どもを育てるしくみです。

## 賞 4 . 公益財団法人ソロプチミスト日本財団「社会ボランティア賞」

平成25年7月上記ソロプチミスト日本財団から下記のような評価を得た。

川越市および鶴ヶ島市を中心とする地域の小学4年生から6年生を対象に大学レベルの授業を行っている。近隣大学の教室を借り、大学教授らの協力を得て行う月に1回の授業は、なぜを迫る「はてな学」、キャリア教育のための「生き方学」、郷土愛を育む「ふるさと学」を柱としている。また、1年間の授業の集大成として職業体験学習の場である学園祭「ミニかわごえ」を川越市と協働で開催し、社会の仕組みを教えている。

## 賞 5 . 平成25年度「あしたのまち・くらしづくり活動賞」

平成25年8月、彩の国コミュニティ協議会(会長上田清司埼玉県知事)から、C U Kのあしたのまちやくらしづくりに関する積極的な活動を評価して優秀賞を受賞した。

後援：川越市教育委員会

N P O法人子ども大学かわごえ

学長 遠藤 克弥

事務局  
N P O法人子ども大学かわごえ  
〒350-1109 川越市霞ヶ関北3-12-6  
霞ヶ関北自治会館内



ホームページ <http://www.cuk.or.jp/>  
TEL 080-2053-2991 (事務局直通)  
FAX 049-233-1640  
E\_MAIL info@cuk.or.jp